



自由民主党・
岩沼市民会議

佐藤 剛太



教育

問 令和3年度、教育の最重点課題として不登校対策を取り組むが、2年度と比べて違いはあるのか。
学校教育課長 これまでの取組に加えて、新たな不登校を生まない学習指導や、学級づくりをより丁寧に行っていく予定です。

問 不登校数を減少させるため、教育委員会内に不登校解消のための人材を健康福祉部から参画させ、(仮称)不登校解消対策室を創設するべきではないか。
学校教育課長 不登校児童生徒の情報は、健康福祉部の子ども福祉課や社会福祉課と共有して、学校教育課と連携を行って、不登校児童生徒、それから保護者の支援に当たっており、今後も情報共有を密に行いながら、適切な指導支援を行っていきます。

問 岩沼市の不登校について、市長の見解を伺う。

市長 大変憂慮しており、今後さらに教育委員会と連携をしながら不登校対策に取り組んでいきます。さらに県市長会でも、引き続き県としてしっかりとこの問題に取り組む

むように要望をしていきます。

問 児童の安全のために、小学校周辺に歩道の整備をしていない場所は、車道と歩く部分の色分けなどをを行い、児童が安全に登下校できる環境整備をするべきではないか伺う。
建設部長 歩道の色分けは、過去に複数の路線で行いました。今後にも必要な部分については整備できるように検討していきます。

共働き子育てしやすい街

問 令和3年度4月の岩沼市の待機児童数(見込数)を伺う。

子育て支援

子ども福祉課長 令和3年4月1日現在で6名の見込となっております。待機児童の解消に向け、引き続き定員の弾力的運用、受入れ枠の拡大と保育士の確保に努めていきます。

問 待機児童数の解消に合わせてさらに共働きをしながら安心して子育てをしやすい街にするため、児童クラブ(学童)に4年生以上の受入れも必要ではないか。

子ども福祉課長 加入希望者は、4年生以上も受け入れたいと考えていますが、施設のスペースや人的確保が困難なことから、3年生までの受入れとなっております。

問 4年生以上でも児童クラブへの加入希望者がどのくらいいるのか、アンケートなどを実施して数を把握するべきではないか。
子ども福祉課長 クラス配置や支援員の数、施設の広さに問題があるため4年生以上のお子さんをこれ以上受け入れることはかなり難しい状況にあるので、アンケート調査等は考えていません。

問 施設の広さが問題で受入れができないのであれば、小学校の空き教室などの活用はできないのか。
子ども福祉課長 小学校の空き教室は、学校との協議の中で、少人数学級や通級の学級等の整備により、空き教室はありません。

市長 教育委員会との話し合いも必要で、できるだけ既存の施設をうまく活用したいと思いますが、今後検討していきます。

問 西部防災コミュニティセンター完成後、西公民館を児童センターと西部地区の子育て拠点施設に整備される予定だが、基本設計や

今後の計画について伺う。

健康福祉部長 劣化調査及び基本設計、それに基づいて改修工事の内容、供用開始までのスケジュールを決定していきます。改修工事は、現在、西公民館部分と西児童センターの施設併設になっており、2階建ての西公民館の部分のみの改修を予定しています。

問 施設の老朽化や今後の維持費も考えると西児童センターの改修も併せてすべきではないか。
市長 今後、劣化調査を行い、公民館部分と児童センター部分の活用も含めて検討する必要があると考えています。

◎その他の会派代表質問

- ・新型コロナウイルス感染症
・デジタル化推進室の創設

会派所属議員

- 佐藤剛太、菊地忍、酒井信幸、
寒風澤敦司、大村晃一



会

派

代

表

質

問